

**浜松市における南米系外国人の  
生活・就労実態調査 報告書**

---

2007年3月  
浜松市企画部国際課

**調査の受託者及び研究チームの構成**

【調査受託者】  
静岡文化芸術大学  
研究担当者: 池上重弘 文化政策学部 准教授

【研究協力者】  
イシカワ エウニセ アケミ  
(静岡文化芸術大学 文化政策学部 准教授)

竹ノ下弘久  
(静岡大学 人文学部 准教授)

千年よしみ  
(国立社会保障・人口問題研究所 国際関係部 第一室長)

**1. 調査の概要**

**1-1. 調査の目的**

- 南米系外国人市民の生活や就労の実態を把握
- 地域共生に関する施策の参考とする
- 1992年、1996年、1999年、2003年に続く5回目の調査
- 「新・浜松市世界都市化ビジョン」策定の基礎資料

**1-2. 調査対象**

- 浜松市に居住する16歳以上の南米系外国人  
(ブラジル人、ペルー人等)

**1-3. 調査方法**

- 郵送・配布によって調査を実施
- ポルトガル語及びスペイン語で作成

**回収率 48.5%**

	配布依頼部数	実際の配布部数	回数部数	回収率
(1) 外国人登録分	900	880	252	28.6%
(2) 企業経由分	1140	915	542	59.2%
(3) 外国人学校経由分	622	576	321	55.7%
(4) 公立学校経由分	211	211	138	65.4%
合計	2873	2582	1253	48.5%

(有効回収総数1252部)

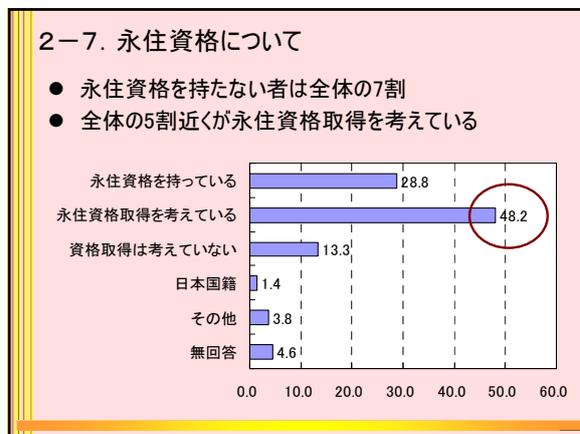
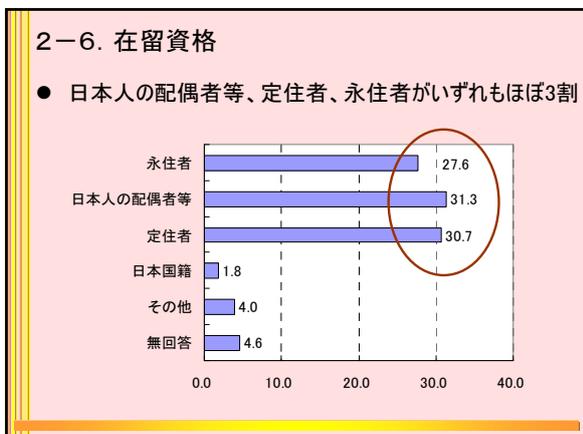
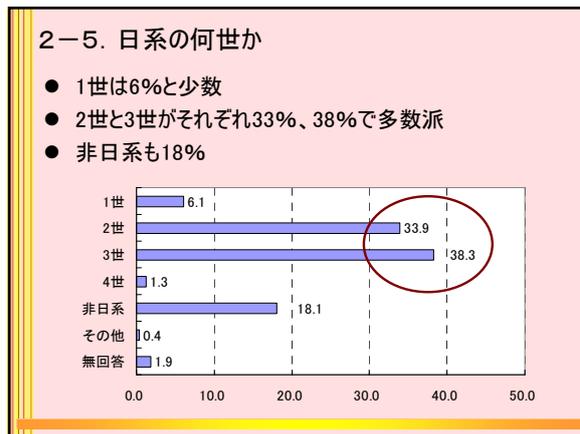
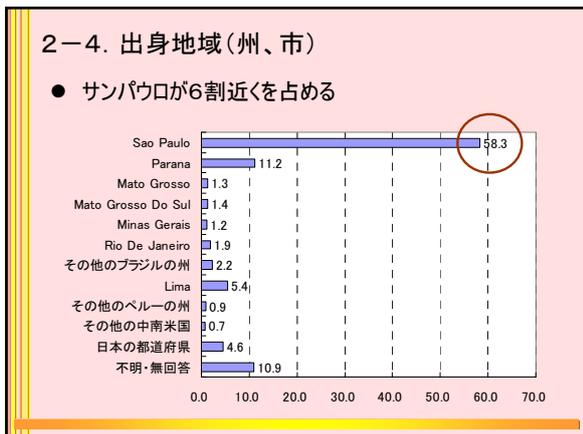
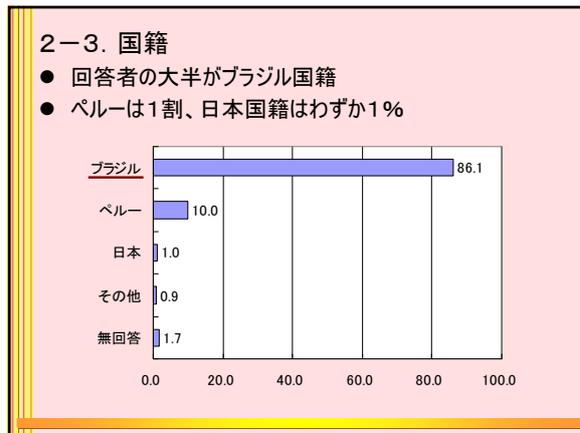
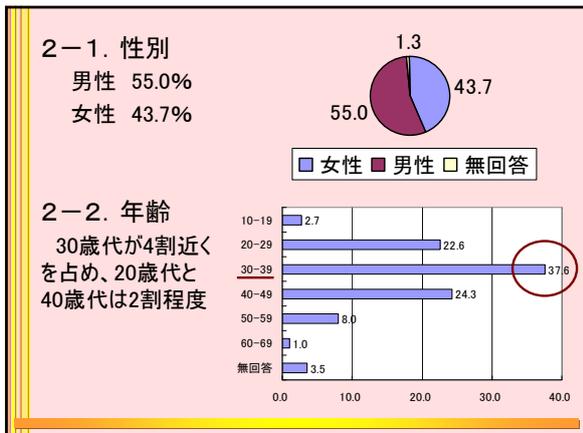
**1-4. 調査項目**

- 浜松市が実施したこれまでの調査と比較  
⇒ 質問項目の調整

①基本属性(20項目)	⑦地域生活(4項目)
②雇用・労働(13項目)	⑧アイデンティティ(4項目)
③居住(3項目)	⑨日本語学習(8項目)
④医療・保険(7項目)	⑩行政サービス(1項目)
⑤ストレス(3項目)	⑪教育(7項目)
⑥社会的ネットワーク(7項目)	⑫母国との関係(3項目)

**2. 基本属性**

# 付録1 単純集計結果のパワーポイント資料



# 付録1 単純集計結果のパワーポイント資料

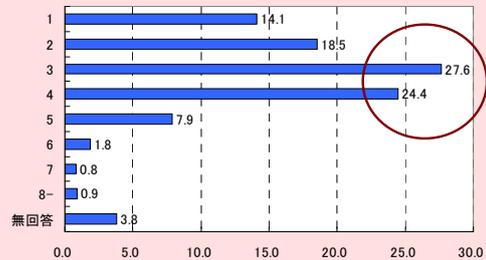
## 2-8. 現在、外国人登録をしている場所

- 8割以上が浜松市



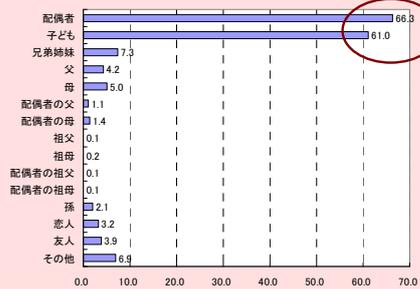
## 2-9. 世帯の人数

- 3人家族が最も多く、次に4人家族が多い



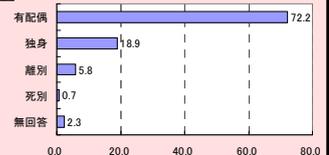
## 2-9-1. 世帯構成

- 配偶者との同居が66%、子どもとの同居が61%
- 1999年調査以降、家族帯同型の滞在が多数派



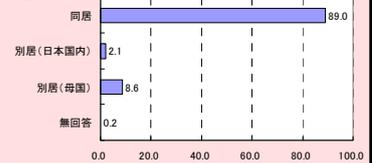
## 2-9-2. 婚姻上の地位

- 7割以上が有配偶
- 約2割が独身



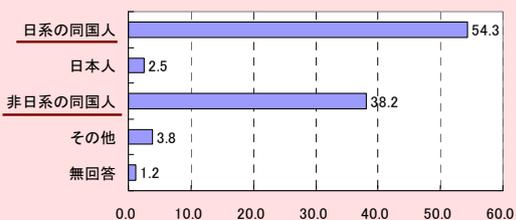
## 2-9-3. 配偶者との同別居

- 9割近くが配偶者と同居



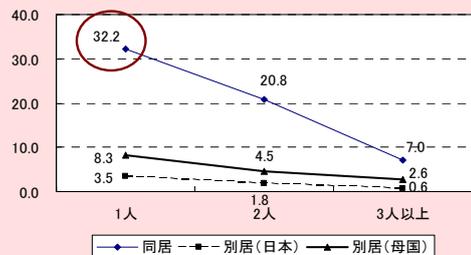
## 2-9-4. 配偶者の民族・エスニシティ

- 日系の同国人が最も多い54.3%
- 非日系の同国人が38.2%



## 2-9-5. 同居・別居と子ども数

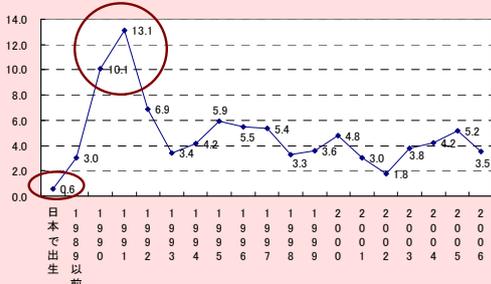
- 同居して子供を持つ者が多い



# 付録1 単純集計結果のパワーポイント資料

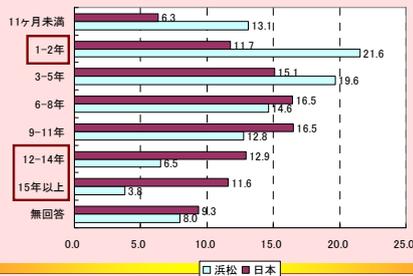
## 2-10. あなたが初めて日本に来た年は？

- 1990年・1991年来日した人が最も多い
- 日本で出生した人はわずか0.6%



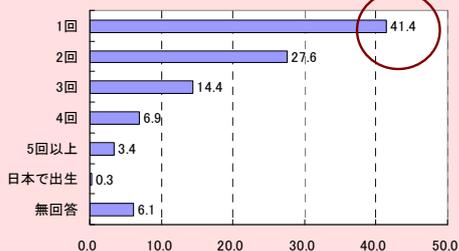
## 2-11. 日本での通算滞在年月は 2-12. 浜松での通算滞在年月は

- 12年以上の長期滞在者が全体の4分の1
- 2年以下の短期滞在者も2割近く



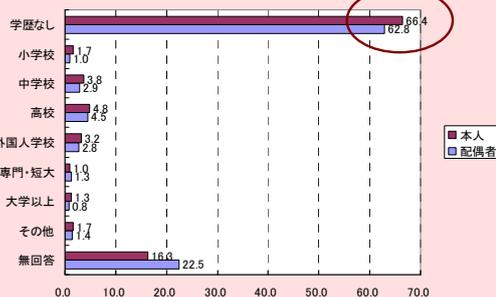
## 2-13. 来日回数

- 4割以上が1回目
- 頻繁に日本と母国を行き来する人は少ない



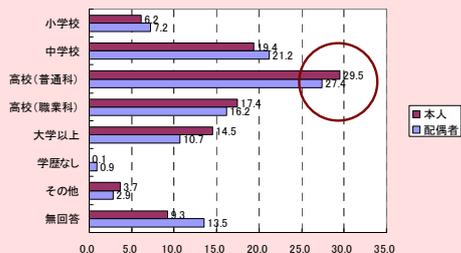
## 2-14. 日本での学歴

- ほとんどが学歴なし



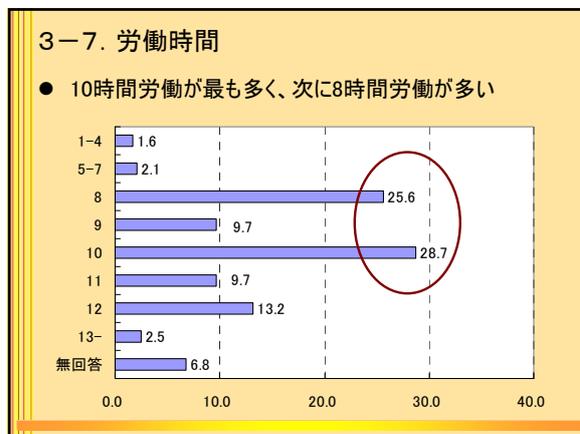
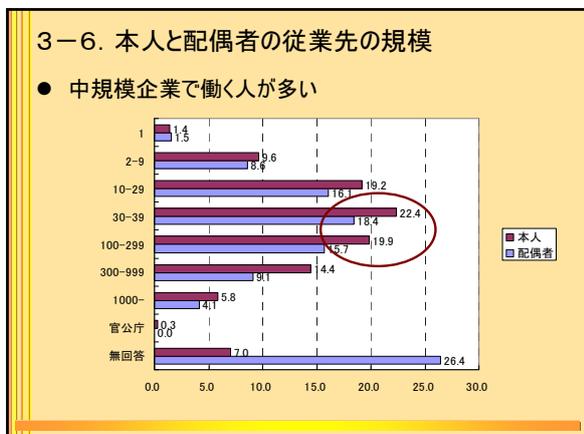
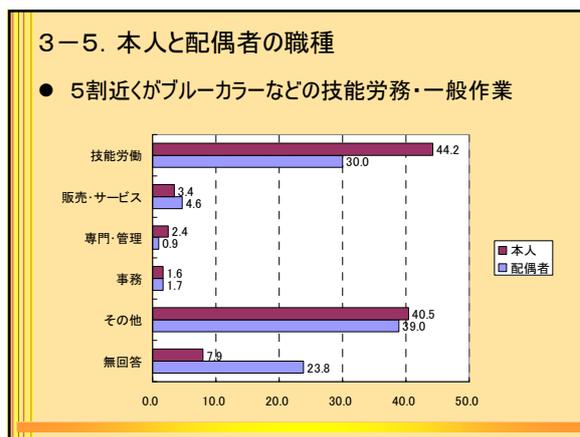
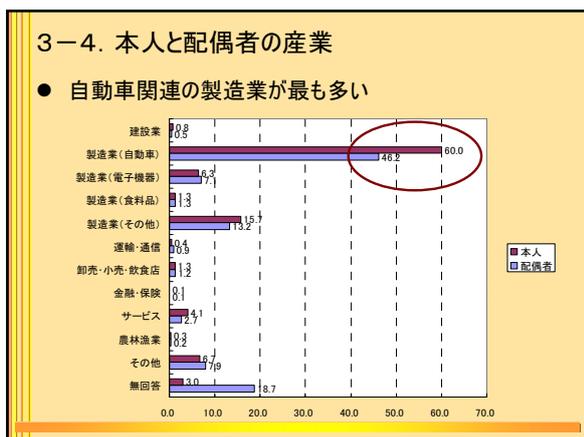
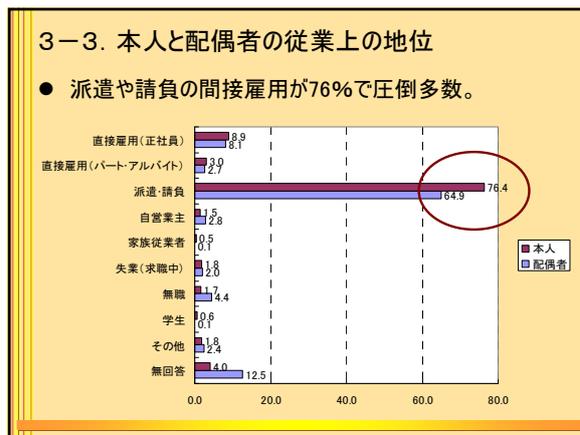
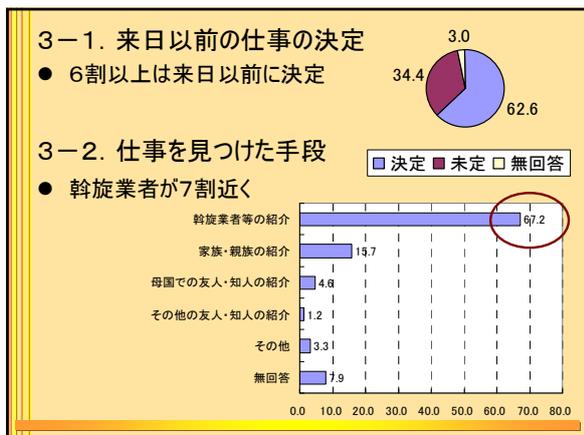
## 2-15. 出身国での学歴

- 学歴なしは非常に少ない
- 普通科高校が最も多い



## 3. 雇用・労働

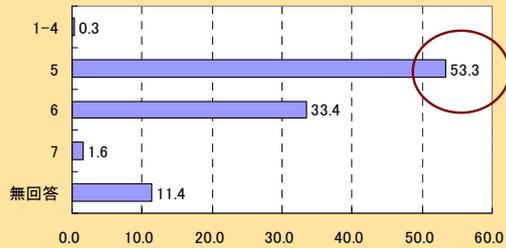
# 付録1 単純集計結果のパワーポイント資料



# 付録1 単純集計結果のパワーポイント資料

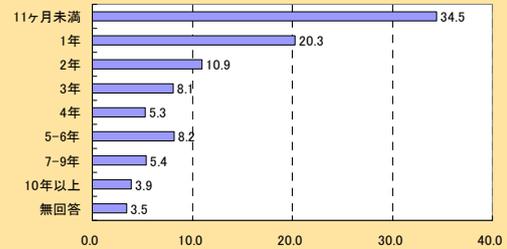
## 3-7-1. 1週間の労働日数

- 半数以上が週に5日



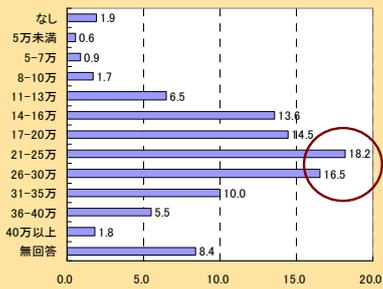
## 3-8. 現在の職場での勤続期間

- 11ヶ月未満が34%で多数
- 1年程度も20%。他方で5年以上在籍も17%。
- 勤続期間の短い層と長い層に分化



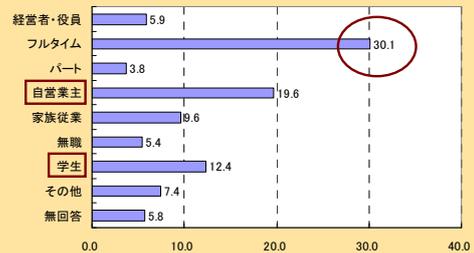
## 3-9. 平均的な月収

- 21-25万が最も多く、次いで26-30万が多い



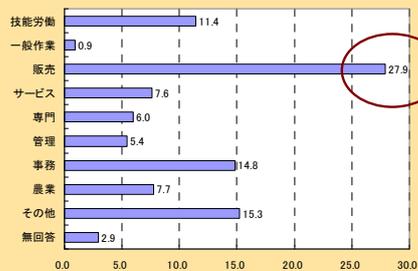
## 3-10. 母国での主な仕事の従業上の地位

- 3割以上がフルタイム
- 自営業・学生だった者も多い



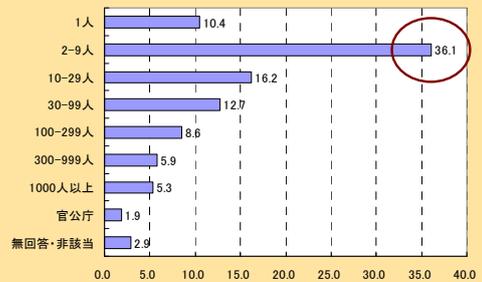
## 3-11. 母国での主な仕事の職種

- 販売が最も多い
- 母国では多様な職業に従事



## 3-12. 母国での従業先の規模

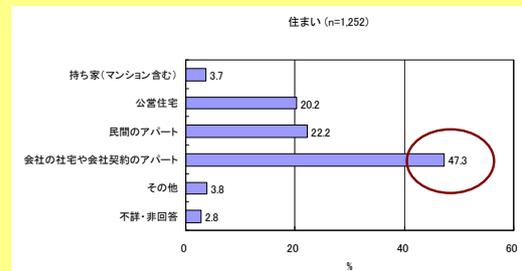
- 2人から9人の零細企業で働く者が多い



## 4. 居住

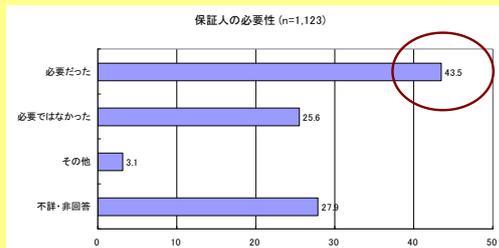
### 4-1. 現在の住まい

- 会社の社宅や会社契約のアパートが最も多い



### 4-2. 保証人の必要性

- 「必要だった」が43.5%
- 「必要ではなかった」が比較的高いのは、会社契約が多いため



### 4-3. 保証人は誰か

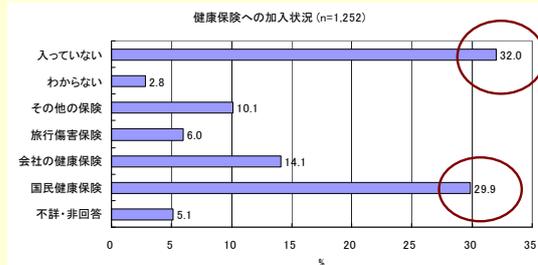
- 「仕事関係の日本人」が41%
- 知り合いに頼む場合も多い



## 5. 医療・保険

### 5-1. 健康保険への加入状況

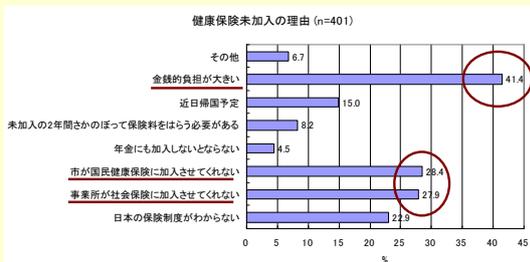
- 保険に入っていない者が32%
- 「国民健康保険」が約30%



# 付録1 単純集計結果のパワーポイント資料

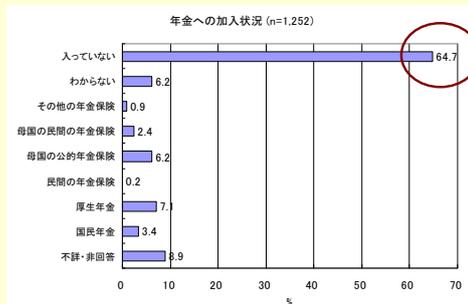
## 5-2. 健康保険未加入の理由

- 「金銭的負担が大きい」が約4割
- 市や事業所が保険に加入させてくれない場合も多い



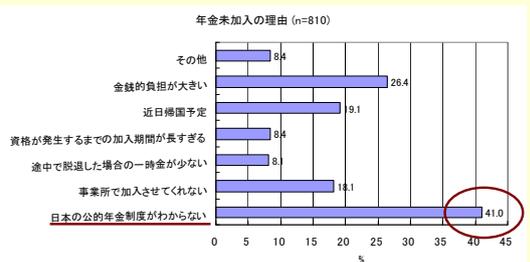
## 5-3. 年金への加入状況

- ほとんどが年金に加入していない



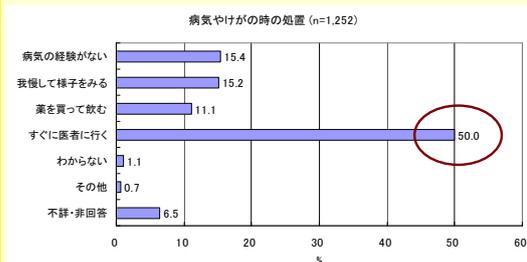
## 5-4. 年金未加入の理由

- 「日本の公的年金制度がわからない」が大多数



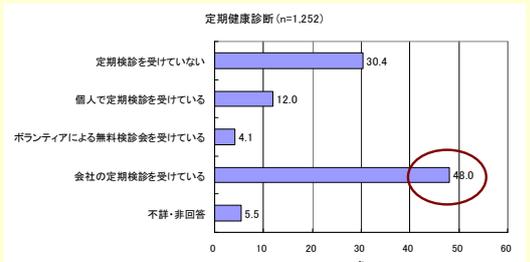
## 5-5. 病気やけがの時の処置

- 圧倒的多数が「すぐ医者に行く」



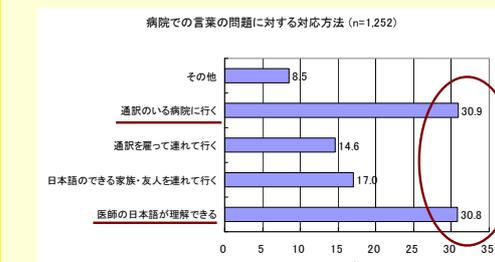
## 5-6. 定期健康診断

- 会社の定期健診を受けている者が多い



## 5-7. 病院での言葉の問題に対する対応

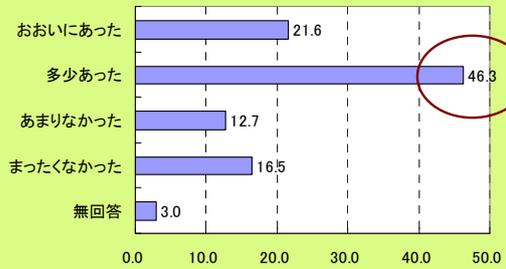
- 「医師の話す日本語がわかる」と「通訳のいる病院に行く」がほぼ同数



## 6. ストレス

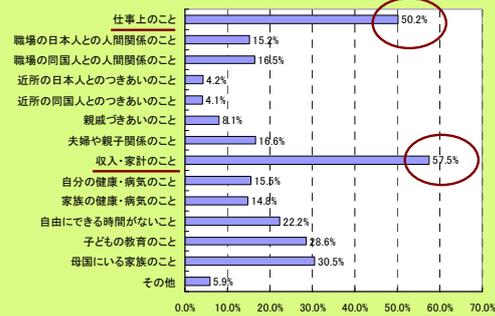
### 6-1. ここ1ヶ月の日常生活のストレス

- 3分の2の回答者がストレスを感じている



### 6-2. ストレスの内容

- 「仕事上のこと」「収入・家計のこと」は選択率5割を超す

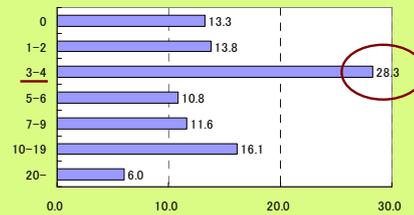


### 6-3. 心理的抑うつ度

- 心理学、ストレス研究などでよく使われる心理的抑うつ度を12の設問を用いて質問

- これらの設問を合計したもので分析

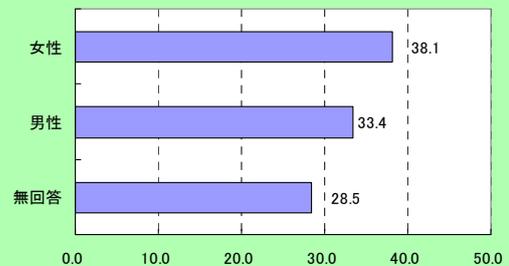
- 5割以上の回答者が、心理的抑うつ得点が4点以下



## 7. 社会的ネットワーク

### 7-1-1. 相談相手の性別

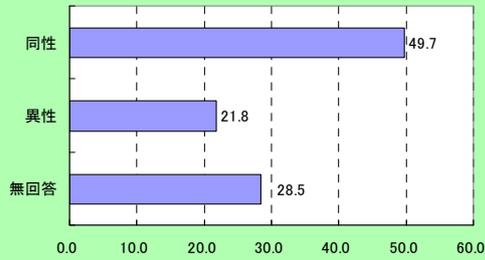
- 女性の方が多い



# 付録1 単純集計結果のパワーポイント資料

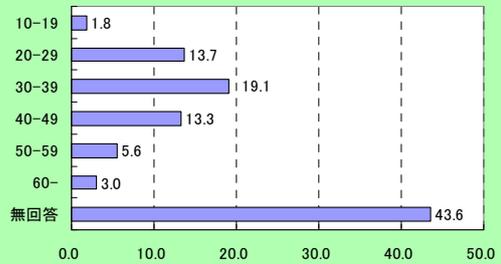
## 7-1-2. 相談相手が同性か異性か

- 同性に相談する人は5割



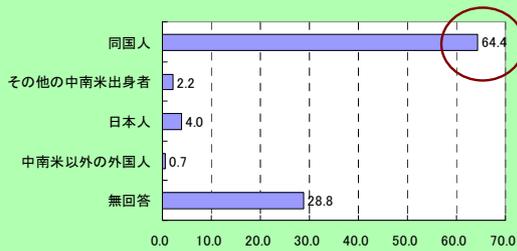
## 7-1-3. 相談相手の年齢

- 回答者の年齢傾向を一定程度反映



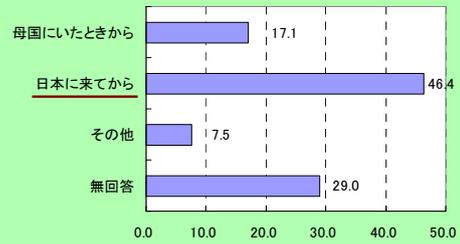
## 7-1-4. 相談相手のエスニシティ

- 大半が同国人と回答



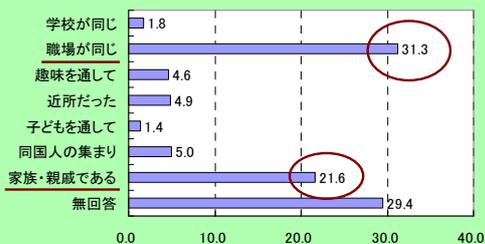
## 7-1-5. 相談相手の知り合った場所

- 半数近くは、日本に来てから知り合った
- 母国にいたときからのネットワークが来日後も継続
- 来日後に形成したネットワークも重要



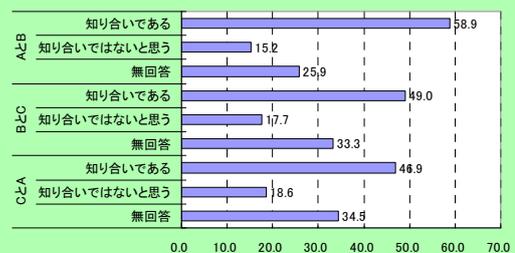
## 7-1-6. 相談相手と知り合った文脈

- 「職場が同じ」が3割
- 「家族・親戚である」も2割を超す



## 7-1-7. 相談相手3人それぞれの関係

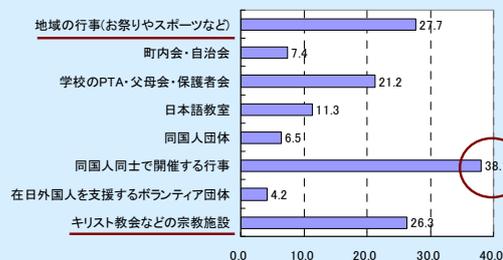
- 相談相手にあがった3人がそれぞれ知り合いである可能性が高い



## 8. 地域生活

### 8-1. 地域の団体・活動への参加状況

- 同国人同士で開催する行事への参加率が最も高い
- 宗教施設・地域の行事に参加する者も多い



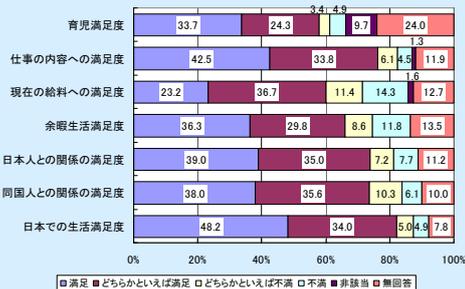
### 8-2. 利用するメディア・情報源

- 最も高いのはインターネット
- 母国語で発信・刊行されているマス・メディア(新聞、ラジオ・テレビ、雑誌)であり、いずれも選択率は5割を超える



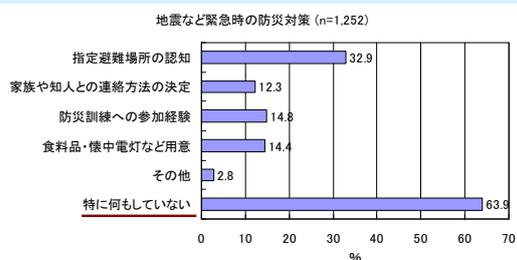
### 8-3. 生活領域ごとの満足度

- 満足、どちらかといえば満足という回答が、非常に多くを占める



### 8-4. 地震など緊急時の防災対策

- 「特に何もしていない」との回答が63%で圧倒的多数

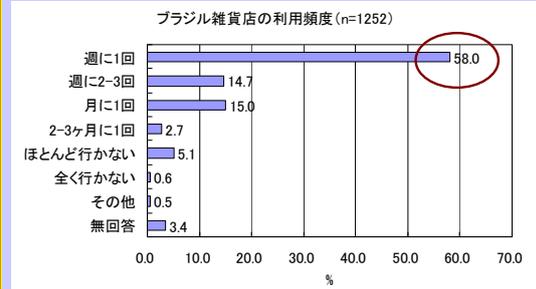


## 9. アイデンティティ

# 付録1 単純集計結果のパワーポイント資料

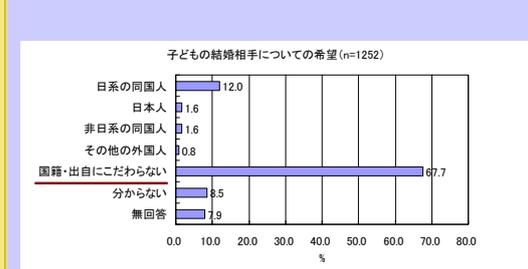
## 9-1. ブラジル雑貨店の利用頻度

- 58%が週1回は行く



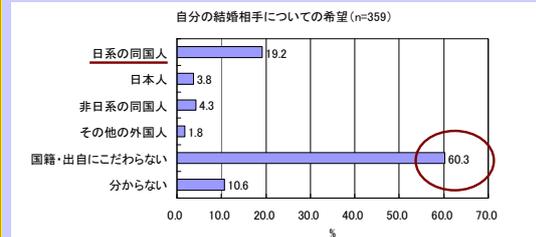
## 9-2. 子どもの結婚相手についての希望

- 「相手の国籍・出自にはこだわらない」が多数



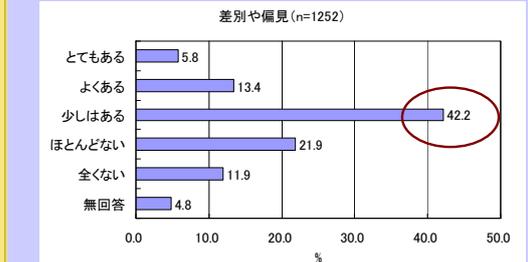
## 9-3. 自分の結婚相手についての希望

- 「相手の国籍・出自にこだわらない」は60%
- 日本に住んでいても、自分の家族は同じ日本人、そして同国人が望ましいと思っている人が大多数であると推測



## 9-4. 差別や偏見

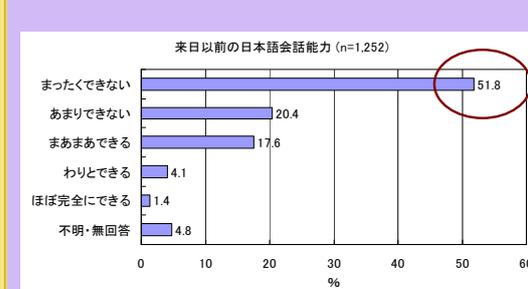
- 「少しはある」が42%
- 6割強が何らかの形で差別を「感じる」と回答



## 10. 日本語学習

## 10-1. 来日以前の日本語会話能力

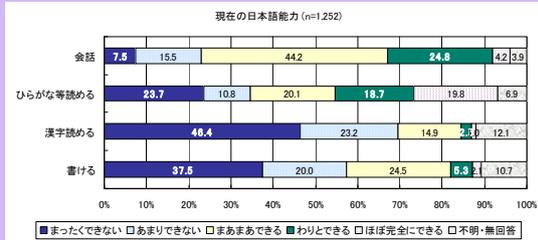
- 「まったくできない」との回答が半数を超える



# 付録1 単純集計結果のパワーポイント資料

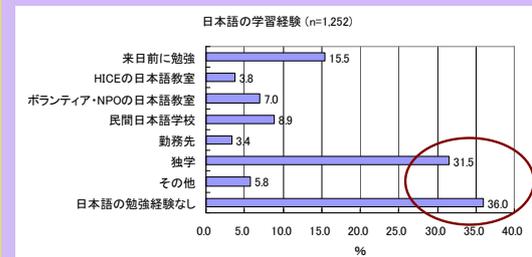
## 10-2. 現在の日本語能力

- 会話は、4人に3人は「まあまあできる」以上の肯定的な自己評価
- 漢字が読めない者が多い



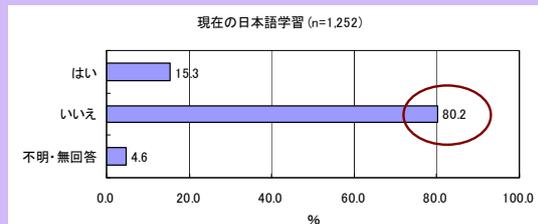
## 10-3. 日本語の学習経験

- 最も多いのは学習経験なし
- 次いで独学が多い



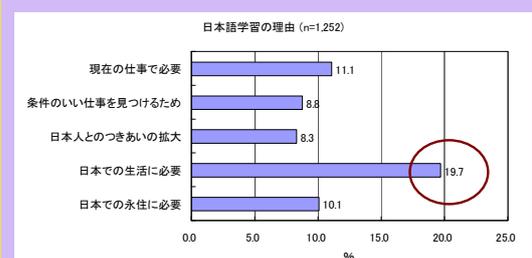
## 10-4. 現在の日本語学習

- 8割以上が勉強していない



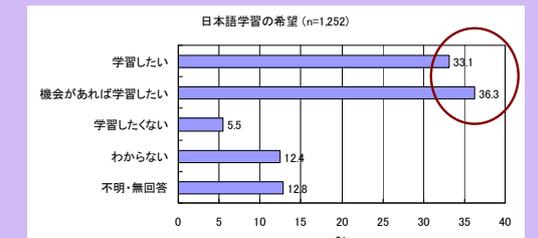
## 10-5. 日本語学習の理由

- 「日本での生活に必要な」が最も多い



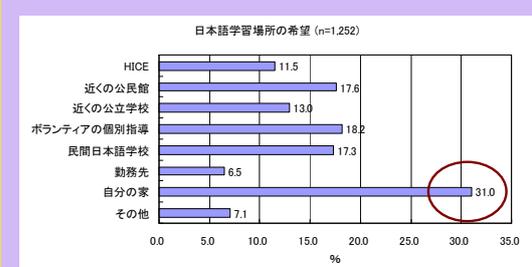
## 10-6. 日本語学習の希望

- 「学習したい」が33%
- 「機会があれば学習したい」が36%
- 両者を合わせると約7割の人が日本語の学習に前向き



## 10-7. 日本語学習場所の希望

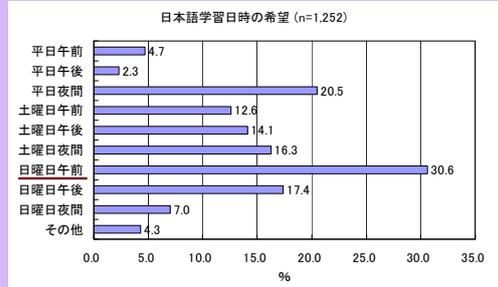
- 「自分の家」が圧倒的多数
- 自分の都合とレベルに合った個別的な指導を求めている



# 付録1 単純集計結果のパワーポイント資料

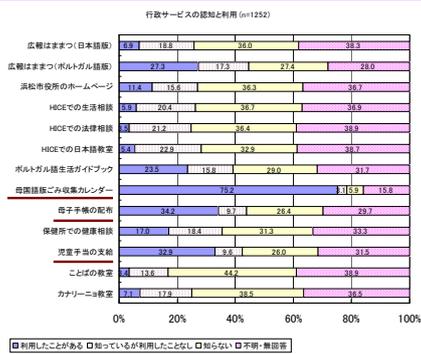
## 10-8. 日本語学習日時の希望

- 日曜午前を希望するものが多い



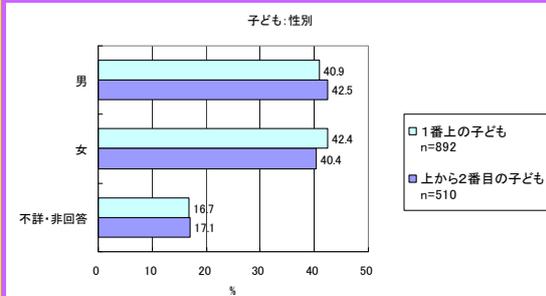
## 11. 行政サービス

### 11-1. 行政サービスの認知と利用

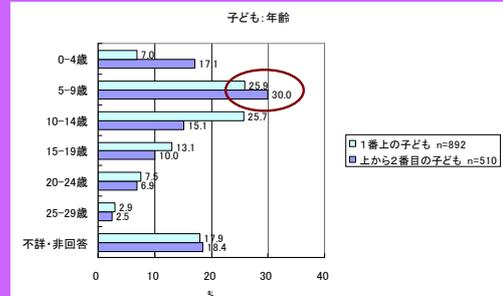


## 12. 教育

### 12-1-1. 子ども:性別



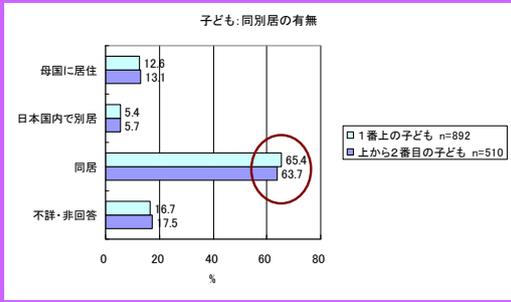
### 12-1-2. 子ども:年齢



# 付録1 単純集計結果のパワーポイント資料

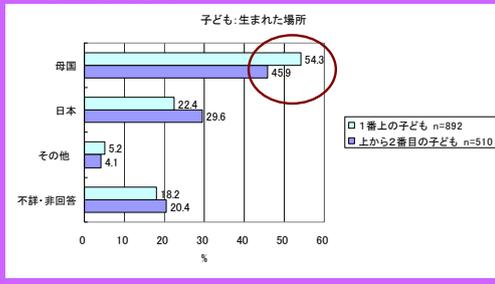
## 12-1-3. 子ども:同同居の有無

- 第一子、第二子共に63~65%が親と同居



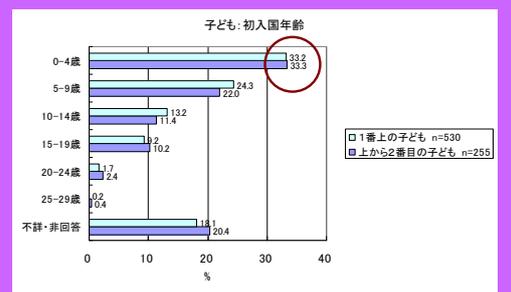
## 12-1-4. 子ども:生まれた場所

- 第一子では「母国」が54%と半数以上
- 日本生まれも多い



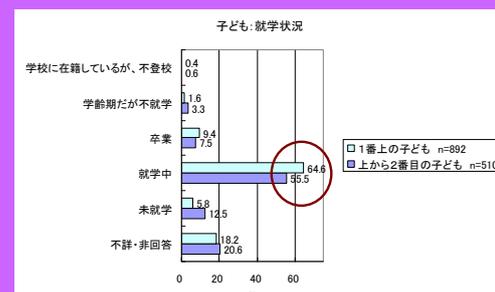
## 12-1-5. 子ども:初入国年齢

- 第一子・第二子共に最も多いのは、0~4歳

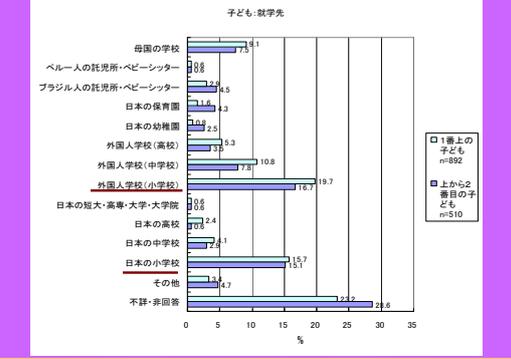


## 12-2. 子ども:就学状況

- 「就学中」が6割



## 12-3. 子ども:就学先

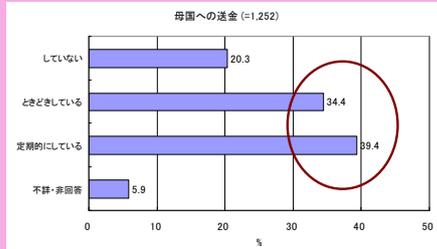


## 13. 母国との関係

# 付録1 単純集計結果のパワーポイント資料

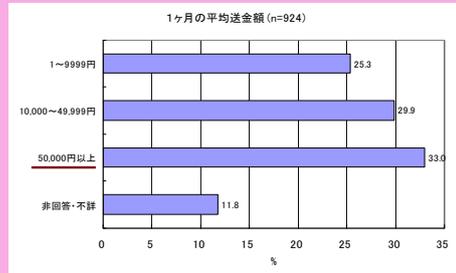
## 13-1. 母国への送金

- 「定期的にしている」が39%
- 「ときどきしている」が34%
- 全体の73%が何らかの形で母国へ送金



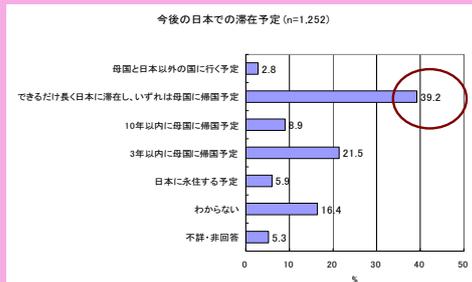
## 13-2. 1ヶ月の平均送金額

- 50,000円以上が33%
- 比較的多額の送金



## 13-3. 今後の日本での滞在予定

- 「できるだけ長く日本に滞在し、いずれは母国に帰国予定」が39%



ご清聴ありがとうございました

スライド作成：  
静岡文化芸術大学 文化政策学部  
国際文化学科4年 清水桃子